



風土記の丘から石手寺の弘法大師像を振り返る(見返り弘法)



## 伊予山の辺のみち 石手寺から比翼塚



秋山好古の墓は日の丸の旗が目印。左の副碑の「永仰遺光」は、好古を永遠に仰ぎ見て、その威光を後世に伝えたいの意味。東京の青山霊園にも墓がある。



▼鷺谷墓地から下ったところ  
に道しるべを見つけた



▲石手寺の仁王門(国宝)に掛けられた大わらじに行程の無事を祈る

◀伊佐爾波神社の駐車場から宝蔵寺へ

▼「安かゝと一本の道通り多理霊剋る和可命奈りけり」宝蔵寺にある斉藤茂吉の歌碑。観光ボランティアがする話では、一遍上人よりも茂吉と永井ふさこのロマンスのほうが観光客の興味をひくようだ



### 伊予山の辺のみちの案内板



### 「伊予山の辺のみち」とは?

平成15年松山市の坂の上の雲まちづくり市民塾の中で、観光まちづくりをめざすグループが奈良の「山の辺の道」をヒントに提案した。平成16年にこの道が「美しい日本の歩きたくなる道500選」に選ばれたことをきっかけに、平成17年

NPO「伊予(い〜よ)山の辺のみちを歩こう会」(代表・森亮一さん)が発足。ウォーキングやガイドマップの作成、案内板の設置など、この道を広め多くの人に親しんでもらえるよう活動している。現在会員は60人を超える。問合せは ☎089-943-2530 「伊予山の辺のみちを歩こう会」森亮一さん

# 美しい日本の歩きたくなる道500選 伊予山の辺のみち みちをゆく

石手寺の裏山から道後を抜けて寺町、城北方面へ、山の端を通って歩く道を「伊予山の辺のみち」と呼ぶ。この道は北へと延伸し、現在の終点は旧北条市のJ.R大浦駅。延べ約28kmにも及ぶ沿路の風景を愛で、歴史をたどりながら歩いてみた。

取材写真協力「伊予山の辺のみちを歩こう会」森亮一さん  
参考文献「伊予北条界隈はええとこそなもし」山野芳幸著

